

ふるさと 再発見

広川町郷土史研究会

学校と教育制度の変遷 その12

～ ララ援助物資と学校給食 ～

戦後の食糧事情とララ物資

「学校給食実施の普及奨励について」という、文部・厚生・農林3省の事務次官通達（昭和21年12月）が出されて以降、戦後の困難な食糧事情のもと、経済的困窮と食糧不足から児童生徒を救済すべく、国は本格的な学校給食開始に取り組みます。

政府は米国に支援を求め、それに応えて最初に援助の手を差し伸べてくれたのはララ（アジア救済連盟）でした。ララによる寄贈給食は、同22年11月から始まり、順次地方へと拡大していきます。23年度まではララ中心の援助ですが、その後はユニセフ（24年度）、ガリオア（占領地域経済復興資金、25年度以降）と代わりながらも、援助そのものは継続します。

そもそもララ物資による援助が始まったのには、その当時米国に在留していた邦人、それと日系米国人の強い働きかけを抜きには語れません。援助物資を積んだ第1船は、同21年11月に到着しています。以後27年度までに、船数458隻・金額的には400億円を超えます。

このうち80億円は、在留邦人・日系人の援助によるものデータもあります。

同23年に出版された文部省体育局長通達は、「学校給食は教育の一環として実施し、直接には児童の体位の向上を計り、間接には栄養学的知識の普及により、家庭における食生活の改善を計るための教育事業である」と謳っています。援助物資の中心は脱脂粉乳で、それこそ多くの児童生徒の健康と栄養保持に、計り知れない貢献を果たしたことはいうまでもありません。

同25年ごろの給食メニューの一例は、コッペパンにマーガリンを塗り、飲むのは脱脂粉乳というものでした。

下広川小学校が八女郡で最初に、完全給食（A型）を実施

同27年5月、下広川小学校が八女郡下でトップを切って、完全給食（ただし有償）を実施します。

同29年6月3日に公布された「学校給食法」によって、学校給食が義務化されます。

このことを受けて多くの学校で、給食設備の整備や給食棟などのインフラ整備に取り

組むこととなります。

広川町では、同31年4月から、各小学校での完全給食を開始することとなりました。広川中学校での完全給食の実施は、同39年1月になってからのことで、そのころのメニューの一例はというと、コッペパン、ミルク（脱脂粉乳）、それに鯖の油揚げが出ています。



▲援助物資にたよる学校給食

福岡県では、昭和22年2月から学校給食が開始され、都市部から徐々に郡部へと拡大していった。出典『福岡県戦後50年の歩み』福岡県



▲最近の給食風景（中広川小学校）出典『広川町史』

広川町古墳資料館だより

1月に、装飾古墳を有する市町村の情報交換や整備状況を共有する「福岡県装飾古墳保存連絡協議会」が宮若市で行われました。開催地となった宮若市は、6世紀後半の壁

画系装飾古墳の代表例である竹原古墳で有名です。

竜や馬、さしば、人物などが赤と黒で描かれた壁画は、高句麗壁画の影響を受けています。



▲竹原古墳の装飾壁画